



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第34回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 スポーツマンシップの共有

「あと一人!」や「あと一球!」コールで応援団責任者が注意を受けたと聞きますが…。

試合も大詰め、二死となり勝利目の守備側チームに対し、スタンドでは「あと一人!」コール。さらに打者を追い詰めると「あと一球!」の連呼。プロ野球では見慣れた光景です。「あと一人、あと一球!」は選手の思いとしては当然。しかし、劣勢の相手チームをさらに追い詰め、逆に囃(はや)し立てるような応援はフェア(公平)と言えるのでしょうか? フェアプレイが身上のスポーツゲーム、しかも「教育の一環」の高校野球、マナーとルールを大切にするのは選手だけではありません。観戦者も立場こそ違うものの、参加者の一員です。スポーツマンシップとは、同志の互いを尊重し合う者の心意気。それが快く弾むとき、味方や相手の域を超えて人を結びつけ信頼が生まれます。一般のファンも加わった大声援だったのでしょう。盛り上がりにも冷静を欠いた…としても、スポーツのみならず日常に心すべきことへの貴重な確認でした。大会本部からの注意事項を、みんなが忘れないようにしたいものです。



ルール編 妨害とは?

打者が二塁打を放ったのち、塁審が一塁手に注意をしていたようですが…。

一塁手がベース付近に立っていたので、打者走者のスピードが一瞬落ちたように見えました。接触はなくても走塁妨害になる可能性を注意したのです。後半に類似のプレイがあったので、試合後に責任教師にも伝えたところ、「ウチは、そんな(意識的な位置取りをする)ことを教えていません!」と返ってきました。

もし「意識的」にしたならば最悪です。たとえ「無意識」だったとしても、思わず知らずを恥じて瞬時に改めるべきでしょう。

上記のプレイは適用こそなかったものの、オブストラクション(走塁妨害)に関係しています。

ルールブックに記載されている「妨害」は、すべて「ひたむきな」プレイを前提に定められた条文です。同時に「現実」に妨害があった」と判断されるものも厳格に適用されます。

「ウチは、そんなこと教えていない!」という言葉の裏側に、ずる賢さが隠れてはいないでしょうか? ルールを学ぶことは、接触しない限界や抜け道を探ることはありません。何よりも原義を正しく受け止めることです。そこに正義感を育む原点があるのだと信じます。

